

# 報道資料

令和2年11月11日  
市町村振興課 松井・乾  
内線(2254・2261)

令和元年度の県内市町村の財政状況をお知らせします。

## 令和元年度県内市町村普通会計決算のポイント

### 歳入歳出額は増加

別紙1

歳入 5,675億円 +164億円(+3.0%)  
歳出 5,540億円 +182億円(+3.4%)

○普通建設事業等の投資的経費が大幅に増加(+145億円)したことにより、歳出規模が大きく増加。

〔補助(+87億円)→公立小中学校のブロック塀改修・空調整備等〕  
〔単独(+78億円)→庁舎整備等〕

### 経常収支比率(市町村平均)は4年ぶりに改善:98.0%(全国は悪化)

※経常収支比率=経常的支出に充当する一般財源等/経常的な一般財源等

別紙2-1

○前年度比0.4ポイント改善。依然として全国平均を大きく上回る高水準。

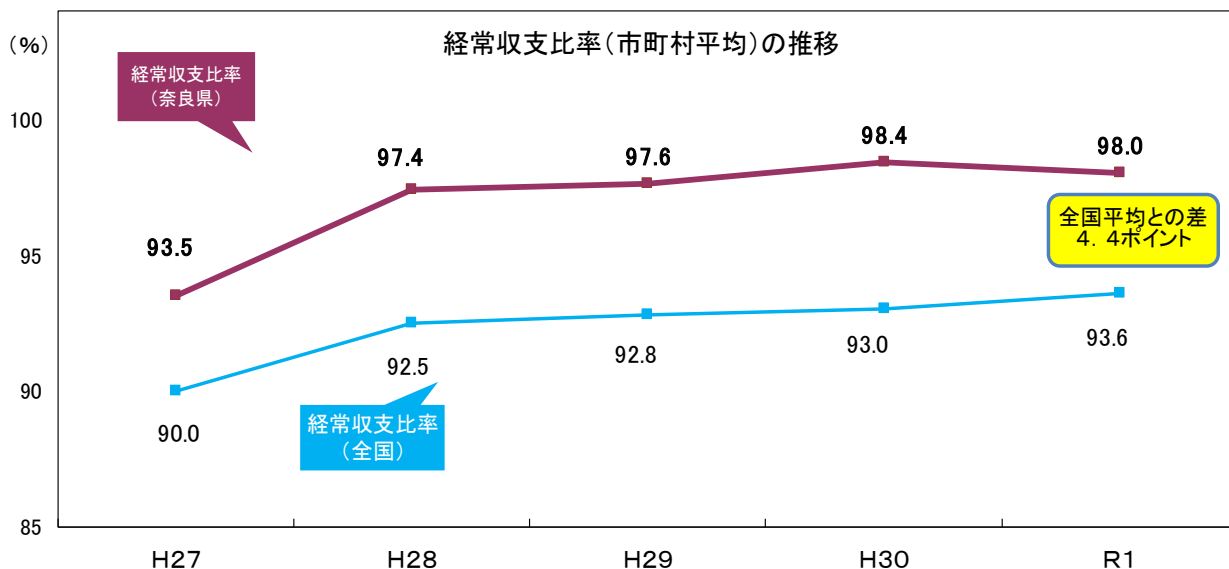
区分	令和元年度	平成30年度	対前年度増減
奈良県	98.0%	98.4%	▲0.4%
全国	93.6%	93.0%	+0.6%

○改善した要因

物件費、扶助費等が増加したが、それ以上に、地方特例交付金や普通交付税が増加。

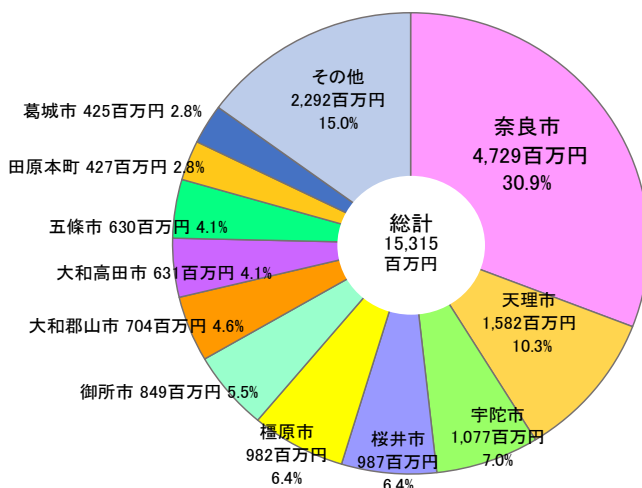
○前年度より改善した団体:21 悪化した団体:17 変動なし:1

経常収支比率100%超:6団体(前年度9団体)



○経常収支比率（市町村平均）改善のためには、決算規模が大きい各市の経常収支比率の改善が特に重要。 別紙2-2

【経常収支比率が全国平均を上回る市町村において必要な歳出削減額】



**実質公債費比率は2年ぶりに改善：9.8%**

別紙3

○前年度比0.2ポイント改善。依然として全国平均を上回る水準。

区分	令和元年度	平成30年度	対前年度増減
奈良県	9.8%	10.0%	▲0.2%
全国	5.8%	6.1%	▲0.3%

**将来負担比率は10年連続改善：68.2%**

別紙4

○前年度比4.5ポイント改善。依然として全国平均を上回る水準。

区分	令和元年度	平成30年度	対前年度増減
奈良県	68.2%	72.7%	▲4.5%
全国	27.4%	28.9%	▲1.5%

**基金残高比率は4年連続悪化：20.2%**

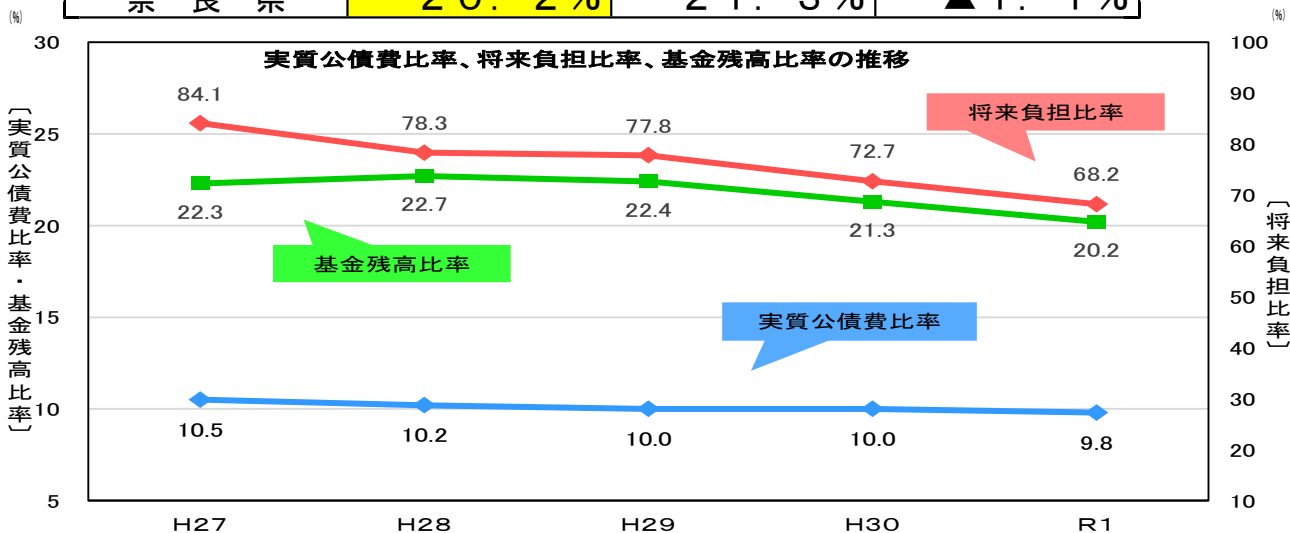
別紙5

※基金残高比率 = (財政調整基金 + 減債基金) 残高 / 標準財政規模

○前年度比1.1ポイント悪化。

○基金残高比率5%未満：4団体（前年度と同じ）

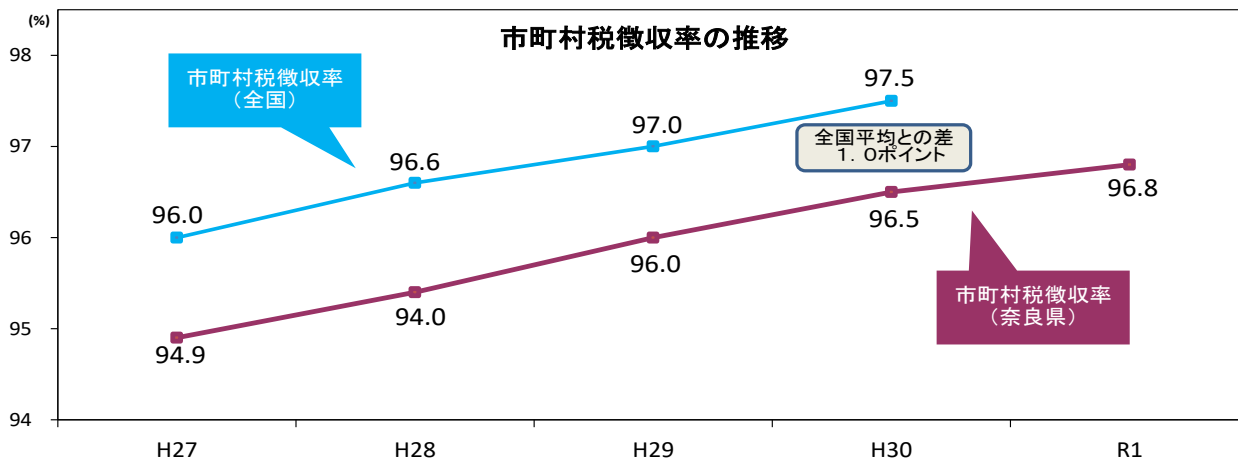
区分	令和元年度	平成30年度	対前年度増減
奈良県	20.2%	21.3%	▲1.1%



**市町村税徴収率は10年連続改善：96.8%**

○前年度比0.3ポイント改善。

区分	令和元年度	平成30年度	対前年度増減
奈良県	96.8%	96.5%	+0.3%
全国	-	97.5%	-

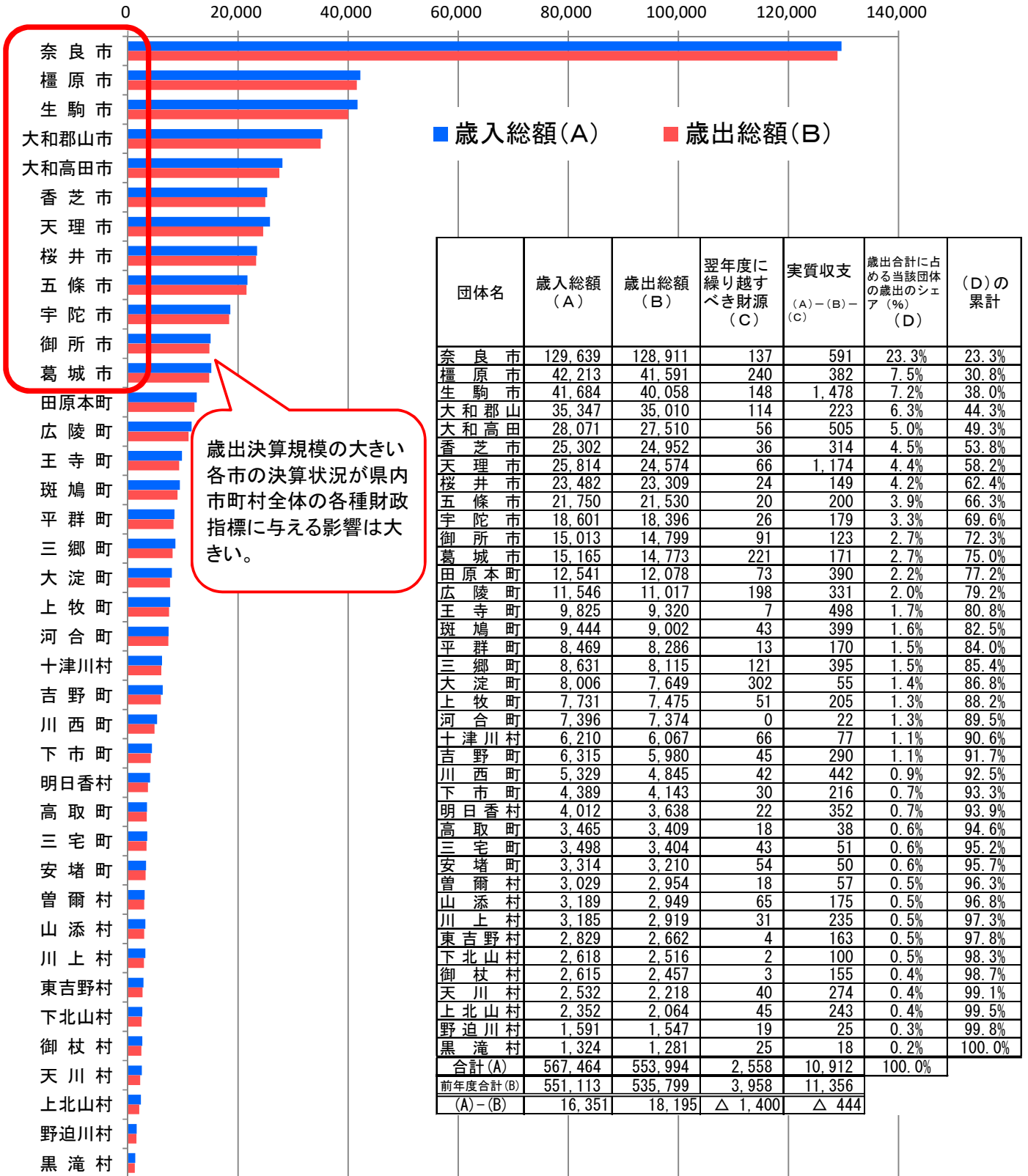


※本資料は、県内各市町村の財政状況を、国において発表された「地方財政状況調査」(速報)をもとにとりまとめたものであり、数値については、今後国の確報値の発表により変動する場合があります。  
 ※本資料の数値については、表示単位未満四捨五入の関係により、一致しない箇所があります。

# 県内各市町村の令和元年度決算規模

○歳入総額は5,675億円となり、前年度を164億円上回った。  
 ○歳出総額は5,540億円となり、前年度を182億円上回った。  
 ○歳出決算額が県内市町村歳出決算額合計のおよそ1/4を占める奈良市をはじめ、歳出決算規模の大きい各市の決算状況が県内市町村全体の各種財政指標に与える影響は大きい。

(単位：百万円)



# 県内各市町村の経常収支比率

別紙2-1

- 経常収支比率(市町村平均)は、4年ぶりに改善し、前年度比0.4ポイント改善。
- 全国平均は0.6ポイント悪化したものの、依然として全国平均を大きく上回っている。
- 経常収支比率(市町村平均)が前年度と比較して改善した要因
  - ・経常収支比率の分子を構成する経常的経費充当一般財源等が、物件費、扶助費の増等により増加。
  - ・分子の増以上に、分母を構成する経常一般財源等が、地方特例交付金や普通交付税の増等により増加。

(単位:%)

令和元年度				平成30年度			
ワースト 順位	市町村名	経常収支 比率(A)	対前年度 増減ポイント (A-B)	ワースト 順位	市町村名	経常収支 比率(B)	
1	→	黒 滝 村	105.8	▲ 0.1	1	御 所 市	105.9
2	↓	御 所 市	104.3	▲ 1.6	1	黒 滝 村	105.9
3	→	天 理 市	103.9	▲ 0.6	3	天 理 市	104.5
4	↑	宇 陀 市	103.1	2.7	4	河 合 町	103.4
5	↓	河 合 町	102.2	▲ 1.2	5	五 條 市	103.2
6	→	桜 井 市	101.3	▲ 1.3	6	桜 井 市	102.6
7	↑	平 群 町	99.9	1.0	7	奈 良 市	100.8
8	↓	奈 良 市	99.7	▲ 1.1	8	宇 陀 市	100.4
8	↑	野 迫 川 村	99.7	▲ 0.2	9	大 淀 町	100.1
10	↑	田 原 本 町	99.6	1.6	10	大 和 郡 山 市	99.9
11	↓	五 條 市	99.5	▲ 3.7	10	野 迫 川 村	99.9
12	↑	上 牧 町	99.3	1.8	12	吉 野 町	99.8
13	↓	吉 野 町	98.5	▲ 1.3	13	大 和 高 田 市	99.4
14	→	葛 城 市	98.2	▲ 0.7	14	葛 城 市	98.9
15	↑	上 北 山 村	97.9	2.5	14	平 群 町	98.9
15	↓	大 和 高 田 市	97.9	▲ 1.5	16	田 原 本 町	98.0
17	↑	檀 原 市	97.7	0.3	17	安 堵 町	97.6
18	↑	明 日 香 村	97.5	0.7	18	上 牧 町	97.5
19	↓	大 和 郡 山 市	97.4	▲ 2.5	19	檀 原 市	97.4
20	↓	安 堵 町	97.2	▲ 0.4	20	明 日 香 村	96.8
21	↑	十 津 川 村	97.1	0.8	21	東 吉 野 村	96.6
22	↑	王 寺 町	97.0	0.9	22	下 市 町	96.5
23	↓	大 淀 町	96.8	▲ 3.3	23	十 津 川 村	96.3
24	↓	東 吉 野 村	96.6	0.0	24	王 寺 町	96.1
25	↑	高 取 町	96.0	2.4	25	下 北 山 村	96.0
25	↓	下 市 町	96.0	▲ 0.5	26	上 北 山 村	95.4
27	→	広 陵 町	94.9	1.1	27	広 陵 町	93.8
28	↑	生 駒 市	94.3	0.8	28	斑 鳩 町	93.6
29	↑	天 川 村	93.3	0.5	28	高 取 町	93.6
29	↓	斑 鳩 町	93.3	▲ 0.3	30	生 駒 市	93.5
31	↑	香 芝 市	92.6	2.8	30	川 上 村	93.5
32	↓	下 北 山 村	92.0	▲ 4.0	32	天 川 村	92.8
33	↓	川 上 村	90.6	▲ 2.9	33	香 芝 市	89.8
34	↑	山 添 村	89.8	3.6	34	三 郷 町	88.6
34	→	三 郷 町	89.8	1.2	34	三 宅 町	88.6
36	↓	三 宅 町	88.2	▲ 0.4	36	曾 爾 村	87.9
37	↑	川 西 町	86.3	1.7	37	山 添 村	86.2
38	↓	曾 爾 村	84.8	▲ 3.1	38	御 杖 村	85.9
39	↓	御 杖 村	82.5	▲ 3.4	39	川 西 町	84.6
<b>県平均</b>		<b>98.0</b>	<b>▲ 0.4</b>	<b>県平均</b>		<b>98.4</b>	
<b>全国平均</b>		<b>93.6</b>	<b>0.6</b>	<b>全国平均</b>		<b>93.0</b>	

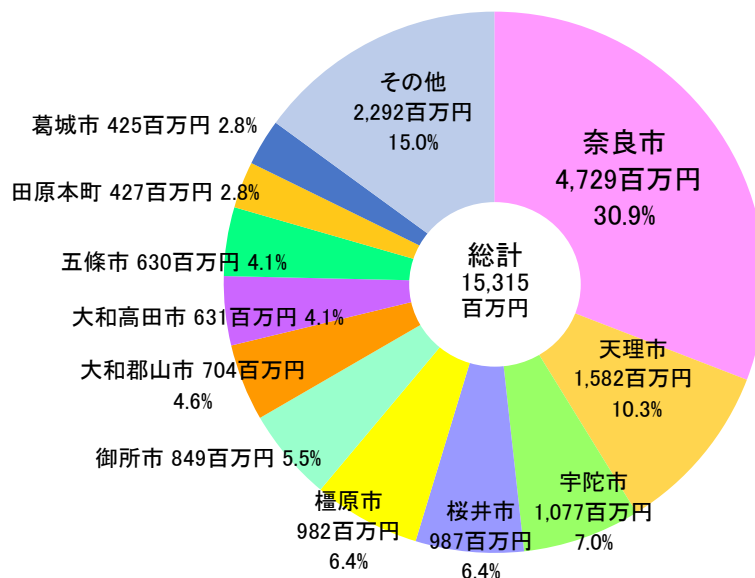
(注) 経常収支比率の平均は加重平均で算出。なお、全国平均には特別区は含まれていません。

## 全国的に低位である本県の経常収支比率(市町村平均)の改善に向けて

- 経常収支比率(市町村平均)は、各団体の経常収支比率の単純平均ではなく、加重平均で算出。  
 ○各団体の経常収支比率を全国平均まで改善するための削減必要額は、経常的な歳出ベースで算出すると下表のとおり。県全体では14,380百万円となる。  
 ○本県の経常収支比率(市町村平均)改善のためには、決算規模が大きい各市の経常収支比率の改善が特に重要。

	経常一般財源等 (A) (百万円)	経常的経費充当一般 財源等(B)(百万円)	経常収支比率 (C=B/A)(%)	全国平均(93.6) との差(D)(%)	(B)×(D) (百万円)
奈良市	77,767	77,528	99.7	+6.1	4,729
天理市	14,780	15,361	103.9	+10.3	1,582
宇陀市	10,998	11,342	103.1	+9.5	1,077
桜井市	12,654	12,825	101.3	+7.7	987
橿原市	24,509	23,957	97.7	+4.1	982
御所市	7,602	7,931	104.3	+10.7	849
大和郡山市	19,024	18,536	97.4	+3.8	704
大和高田市	14,978	14,667	97.9	+4.3	631
五條市	10,730	10,673	99.5	+5.9	630
田原本町	7,146	7,119	99.6	+6.0	427
葛城市	9,400	9,235	98.2	+4.6	425
河合町	4,383	4,479	102.2	+8.6	385
平群町	4,687	4,683	99.9	+6.3	295
上牧町	5,013	4,977	99.3	+5.7	284
王寺町	5,353	5,193	97.0	+3.4	177
吉野町	3,283	3,233	98.5	+4.9	158
生駒市	23,173	21,844	94.3	+0.7	153
大淀町	4,903	4,746	96.8	+3.2	152
十津川村	3,274	3,179	97.1	+3.5	111
広陵町	7,549	7,164	94.9	+1.3	93
黒滝村	717	758	105.8	+12.2	92
安堵町	2,230	2,167	97.2	+3.6	78
明日香村	2,037	1,987	97.5	+3.9	77
下市町	2,564	2,461	96.0	+2.4	59
高取町	2,261	2,172	96.0	+2.4	52
野迫川村	758	755	99.7	+6.1	46
東吉野村	1,387	1,341	96.6	+3.0	40
上北山村	885	866	97.9	+4.3	37
小計	284,046	281,179	—	—	15,315
三郷町	5,005	4,493	89.8	▲ 3.8	▲ 171
川西町	2,650	2,286	86.3	▲ 7.3	▲ 167
香芝市	15,563	14,417	92.6	▲ 1.0	▲ 144
御杖村	1,269	1,047	82.5	▲ 11.1	▲ 116
三宅町	2,207	1,946	88.2	▲ 5.4	▲ 105
曾爾村	1,176	997	84.8	▲ 8.8	▲ 88
山添村	1,911	1,715	89.8	▲ 3.8	▲ 65
川上村	1,571	1,424	90.6	▲ 3.0	▲ 43
斑鳩町	6,187	5,772	93.3	▲ 0.3	▲ 17
下北山村	1,014	933	92.0	▲ 1.6	▲ 15
天川村	1,374	1,282	93.3	▲ 0.3	▲ 4
小計	39,925	36,312	—	—	▲ 935
合計(平均)	323,971	317,491	98.0	4.4	14,380

【経常収支比率が全国平均を上回る市町村において必要な歳出削減額】



# 県内各市町村の実質公債費比率

別紙3

- 実質公債費比率(市町村平均)は、前年度と比較すると0.2ポイント改善。
- 全国平均は0.3ポイント改善し、依然として全国平均を上回っている。
- 全国平均未達の団体数は、前年度から2団体減少し、8団体となった。

(単位:%)

令和元年度				平成30年度		
ワースト順位	市町村名	実質公債費比率(A)	対前年度増減ポイント(A-B)	ワースト順位	市町村名	実質公債費比率(B)
1 →	河合町	20.8	▲0.3	1	河合町	21.1
2 ↑	平群町	16.1	0.5	2	香芝市	16.9
3 ↓	香芝市	15.2	▲1.7	3	平群町	15.6
4 →	五條市	15.0	▲0.3	4	五條市	15.3
5 →	宇陀市	14.4	0.3	5	宇陀市	14.1
6 ↑	上牧町	13.9	▲0.1	5	下市町	14.1
6 ↓	下市町	13.9	▲0.2	7	上牧町	14.0
8 →	御所市	13.2	▲0.3	8	御所市	13.5
9 →	大和郡山市	12.3	▲0.3	9	大和郡山市	12.6
10 ↑	野迫川村	11.8	2.3	10	奈良市	11.9
11 ↓	奈良市	11.2	▲0.7	11	天理市	10.5
12 ↓	天理市	10.6	0.1	12	天川村	10.3
13 ↓	天川村	10.5	0.2	13	野迫川村	9.5
14 ↑	三宅町	9.9	1.0	14	高取町	9.4
15 ↓	高取町	9.4	0.0	15	大和高田市	9.1
16 →	大淀町	9.4	0.4	16	大淀町	9.0
17 ↑	東吉野村	9.1	0.8	17	三宅町	8.9
18 ↑	田原本町	9.0	1.1	18	川西町	8.6
19 ↓	川西町	8.9	0.3	19	東吉野村	8.3
20 ↑	吉野町	8.9	0.9	20	広陵町	8.1
21 ↓	大和高田市	8.8	▲0.3	21	吉野町	8.0
22 ↓	広陵町	8.2	0.1	22	田原本町	7.9
23 ↑	十津川村	8.0	0.5	23	桜井市	7.7
24 ↑	葛城市	7.9	0.6	24	十津川村	7.5
25 ↓	桜井市	7.5	▲0.2	25	葛城市	7.3
26 ↑	曾爾村	7.3	3.0	26	檀原市	6.9
27 ↓	斑鳩町	7.1	0.2	26	斑鳩町	6.9
28 ↑	川上村	6.7	1.7	28	安堵町	6.3
29 ↓	安堵町	6.2	▲0.1	29	明日香村	6.2
30 ↓	明日香村	6.0	▲0.2	30	下北山村	5.6
31 ↓	下北山村	6.0	0.4	31	川上村	5.0
32 ↓	檀原市	5.3	▲1.6	32	黒滝村	4.8
33 ↓	黒滝村	5.1	0.3	33	御杖村	4.4
34 ↑	王寺町	4.8	0.8	34	曾爾村	4.3
35 ↑	生駒市	4.6	2.1	35	王寺町	4.0
36 ↓	御杖村	3.9	▲0.5	36	上北山村	3.5
37 ↑	山添村	3.1	0.7	37	生駒市	2.5
38 ↓	上北山村	3.1	▲0.4	38	山添村	2.4
39 →	三郷町	0.4	0.4	39	三郷町	0.0
<b>県平均</b>		<b>9.8</b>	<b>▲0.2</b>	<b>県平均</b>		<b>10.0</b>
<b>全国平均</b>		<b>5.8</b>	<b>▲0.3</b>	<b>全国平均</b>		<b>6.1</b>

# 県内各市町村の将来負担比率

別紙4

- 将来負担比率(市町村平均)は、前年度比4.5ポイント改善。
- 全国平均は1.5ポイント改善し、依然として全国平均を上回っている。
- 全国平均未満の団体数は、前年度と比較して増減なし。

(単位:%)

令和元年度					平成30年度		
ワースト 順位	市町村名	将来負担 比率(A)	対前年度 増減ポイント (A-B)	ワースト 順位	市町村名	将来負担 比率(B)	
1	→	平 群 町	241.3	15.6	1	平 群 町	225.7
2	→	河 合 町	225.3	16.2	2	河 合 町	209.1
3	→	奈 良 市	137.3	▲ 15.7	3	奈 良 市	153.0
4	→	宇 陀 市	124.7	1.6	4	五 條 市	123.1
5	↓	五 條 市	123.2	0.1	4	宇 陀 市	123.1
6	→	上 牧 町	115.3	▲ 7.6	6	上 牧 町	122.9
7	→	高 取 町	110.9	▲ 9.6	7	高 取 町	120.5
8	↑	吉 野 町	108.7	10.0	8	御 所 市	113.6
9	↓	御 所 市	105.6	▲ 8.0	9	香 芝 市	101.8
10	↑	桜 井 市	93.8	▲ 1.5	10	吉 野 町	98.7
11	↓	香 芝 市	86.5	▲ 15.3	11	桜 井 市	95.3
12	↑	田 原 本 町	79.7	2.8	12	天 理 市	78.8
13	→	下 市 町	73.6	▲ 3.6	13	下 市 町	77.2
14	↓	天 理 市	64.8	▲ 14.0	14	田 原 本 町	76.9
15	→	葛 城 市	57.2	▲ 0.1	15	葛 城 市	57.3
16	→	檀 原 市	56.6	1.6	16	檀 原 市	55.0
17	↑	三 郷 町	48.2	7.9	17	広 陵 町	54.8
17	→	広 陵 町	48.2	▲ 6.6	18	明 日 香 村	41.1
19	↑	斑 鳩 町	46.1	6.3	19	三 郷 町	40.3
20	→	大 和 高 田 市	43.7	3.7	20	大 和 高 田 市	40.0
21	↑	大 和 郡 山 市	42.3	10.4	21	斑 鳩 町	39.8
22	↑	安 堵 町	33.9	▲ 1.6	22	三 宅 町	37.6
23	↓	三 宅 町	32.6	▲ 5.0	23	安 堵 町	35.5
24	↓	明 日 香 村	29.6	▲ 11.5	24	大 和 郡 山 市	31.9
25	→	野 迫 川 村	12.1	▲ 8.6	25	野 迫 川 村	20.7
26	↑	東 吉 野 村	9.8	14.6	26	十 津 川 村	18.5
27	→	大 淀 町	7.1	▲ 6.4	27	大 淀 町	13.5
28	↓	十 津 川 村	2.7	▲ 15.8	28	東 吉 野 村	▲ 4.8
29	→	天 川 村	▲ 5.4	0.4	29	天 川 村	▲ 5.8
30	→	山 添 村	▲ 23.4	▲ 15.0	30	山 添 村	▲ 8.4
31	→	黒 滝 村	▲ 24.8	21.7	31	黒 滝 村	▲ 46.5
32	→	川 西 町	▲ 30.6	16.0	32	川 西 町	▲ 46.6
33	→	生 駒 市	▲ 85.4	▲ 7.9	33	生 駒 市	▲ 77.5
34	↑	曾 爾 村	▲ 89.9	50.9	34	王 寺 町	▲ 139.2
35	↓	王 寺 町	▲ 145.6	▲ 6.4	35	曾 爾 村	▲ 140.8
36	↑	上 北 山 村	▲ 168.8	23.0	36	御 杖 村	▲ 187.2
37	↓	御 杖 村	▲ 209.5	▲ 22.3	37	上 北 山 村	▲ 191.8
38	→	下 北 山 村	▲ 216.3	32.6	38	下 北 山 村	▲ 248.9
39	→	川 上 村	▲ 352.8	40.3	39	川 上 村	▲ 393.1
<b>県平均</b>		<b>68.2</b>	<b>▲ 4.5</b>	<b>県平均</b>		<b>72.7</b>	
<b>全国平均</b>		<b>27.4</b>	<b>▲ 1.5</b>	<b>全国平均</b>		<b>28.9</b>	



# 県内各市町村の基金残高比率

別紙5

○基金残高比率(市町村平均)は、前年度比1.1ポイント悪化。  
 ○5%未満の団体は、河合町(1.0%)、奈良市(1.9%)、平群町(3.2%)、桜井市(4.7%)の4団体。

※基金は、財政調整基金と減債基金の合計。

※基金残高比率は、標準財政規模に対する基金残高の割合。

(単位:%)

令和元年度				平成30年度			
ワースト 順位	市町村名	基金残高 比率(A)	対前年度 増減ポイント (A-B)	ワースト 順位	市町村名	基金残高 比率(B)	
1	↑	河合町	1.0	▲1.8	1	奈良市	1.6
2	↓	奈良市	1.9	0.3	2	平群町	2.1
3	↓	平群町	3.2	1.1	3	河合町	2.8
4	→	桜井市	4.7	0.7	4	桜井市	4.0
5	↑	橿原市	8.6	▲1.6	5	大和高田市	5.8
6	↓	大和高田市	8.8	3.0	6	天理市	8.4
7	↓	天理市	9.9	1.5	7	香芝市	9.8
8	↓	香芝市	11.2	1.4	8	橿原市	10.2
9	→	大和郡山市	15.9	▲0.2	9	大和郡山市	16.1
10	↑	宇陀市	17.3	▲3.9	10	高取町	18.9
11	→	上牧町	18.4	▲1.3	11	上牧町	19.7
12	↑	吉野町	18.5	▲10.5	12	宇陀市	21.2
13	→	五條市	20.1	▲2.5	13	五條市	22.6
14	↑	生駒市	20.6	▲8.8	14	葛城市	24.0
15	↓	葛城市	22.0	▲2.0	15	三郷町	26.2
16	↓	高取町	22.1	3.2	16	明日香村	26.9
17	→	広陵町	25.4	▲2.1	17	広陵町	27.5
18	↓	三郷町	26.1	▲0.1	18	吉野町	29.0
19	↓	明日香村	28.1	1.2	19	生駒市	29.4
20	↑	大淀町	32.4	▲10.3	20	斑鳩町	33.7
21	↑	下市町	32.5	▲7.3	21	田原本町	38.9
22	↓	斑鳩町	33.7	▲0.0	22	下市町	39.8
23	↓	田原本町	37.9	▲1.0	23	御所市	40.2
24	↓	御所市	42.4	2.2	24	大淀町	42.7
25	↑	安堵町	52.1	▲2.2	25	山添村	53.5
26	↓	山添村	62.9	9.4	26	安堵町	54.3
26	↑	十津川村	62.9	▲8.8	27	十津川村	71.7
28	↑	黒滝村	71.3	▲17.9	28	曾爾村	75.6
29	↓	曾爾村	73.5	▲2.1	29	三宅町	77.8
30	↓	三宅町	78.1	0.3	30	黒滝村	89.2
31	↑	東吉野村	87.8	▲14.9	31	川西町	94.0
32	↓	川西町	93.1	▲0.9	32	王寺町	96.3
33	↓	王寺町	101.5	5.2	33	御杖村	97.4
34	↑	天川村	110.6	▲3.2	34	東吉野村	102.7
35	↑	野迫川村	116.9	▲7.2	35	天川村	113.8
36	↓	御杖村	123.8	26.4	36	野迫川村	124.1
37	→	川上村	127.5	▲15.3	37	川上村	142.8
38	→	上北山村	181.7	▲21.6	38	上北山村	203.3
39	→	下北山村	196.9	▲9.7	39	下北山村	206.6
<b>県平均</b>		<b>20.2</b>	<b>▲1.1</b>	<b>県平均</b>		<b>21.3</b>	

(注)基金残高比率の平均は加重平均で算出。

# 市町村税徴収率の推移

別紙6

- 徴収率(県平均)は、前年度比0.3ポイント改善。  
 ○前年度より順位が上昇した市町村は、15団体。前年度より順位が下降した団体は、18団体。  
 ○前年度と順位に変動がない市町村は、6団体。

(単位:%)

令和元年度				平成30年度		
順位	市町村名	徴収率(A)	対前年度 増減ポイント (A-B)	順位	市町村名	徴収率(B)
1 →	三宅町	99.8	0.0	1	三宅町	99.8
2 →	王寺町	99.6	0.2	2	王寺町	99.4
3 ↑	川西町	99.4	0.7	3	桜井市	99.2
4 ↓	桜井市	99.1	▲0.1	4	明日香村	98.8
5 ↑	下北山村	99.0	0.5	5	平群町	98.7
6 ↓	明日香村	98.8	0.0	5	川西町	98.7
7 →	五條市	98.5	0.0	7	五條市	98.5
8 ↓	平群町	98.3	▲0.4	7	下北山村	98.5
9 ↑	川上村	98.2	0.7	9	東吉野村	98.2
9 ↓	東吉野村	98.2	0.0	10	広陵町	98.0
11 ↓	広陵町	98.0	0.0	11	斑鳩町	97.7
12 ↓	斑鳩町	97.9	0.2	12	山添村	97.6
13 ↑	上北山村	97.4	0.2	13	川上村	97.5
14 ↑	奈良市	97.3	0.2	14	上北山村	97.2
15 ↓	山添村	97.2	▲0.4	15	奈良市	97.1
15 ↑	河合町	97.2	1.0	16	下市町	96.8
17 →	安堵町	97.0	0.4	17	安堵町	96.6
17 ↓	下市町	97.0	0.2	18	大和郡山市	96.5
19 ↓	大和郡山市	96.8	0.3	19	橿原市	96.2
20 ↓	橿原市	96.6	0.4	19	河合町	96.2
21 ↑	田原本町	96.4	0.5	21	黒滝村	96.0
22 ↑	大和高田市	96.3	0.7	22	田原本町	95.9
22 ↑	香芝市	96.3	0.5	23	香芝市	95.8
22 ↓	黒滝村	96.3	0.3	24	生駒市	95.7
25 ↓	生駒市	96.2	0.5	24	宇陀市	95.7
26 ↑	葛城市	95.8	0.4	26	大和高田市	95.6
26 ↓	宇陀市	95.8	0.1	27	葛城市	95.4
26 ↑	三郷町	95.8	0.5	28	三郷町	95.3
29 ↓	御杖村	95.5	0.2	28	御杖村	95.3
30 ↑	十津川村	95.4	0.7	30	曾爾村	95.1
31 ↑	高取町	95.3	0.9	31	天理市	94.7
32 ↓	曾爾村	95.2	0.1	31	十津川村	94.7
33 ↓	天理市	95.1	0.4	33	大淀町	94.6
34 ↓	大淀町	94.7	0.1	34	高取町	94.4
35 ↑	野迫川村	94.1	0.6	35	御所市	93.9
36 ↑	吉野町	94.0	0.6	36	野迫川村	93.5
37 ↓	御所市	93.9	0.0	37	吉野町	93.4
38 →	上牧町	90.0	0.3	38	上牧町	89.7
39 →	天川村	86.7	▲0.5	39	天川村	87.2
<b>県平均</b>		<b>96.8</b>	<b>0.3</b>	<b>県平均</b>		<b>96.5</b>
<b>全国平均</b>		-	-	<b>全国平均</b>		<b>97.5</b>

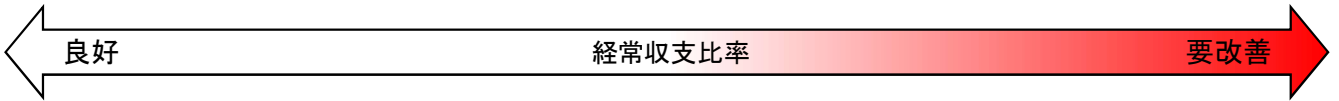
令和元年度 県内市町村普通会計決算  
【資料編】

- 資料1 県内各市町村の経常収支比率の対前年度比較
- 資料2① 県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳及び対前年度
- 資料2② 県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳
- 資料2③ (参考) H30県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳
- 資料2④ 県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳  
(うち人件費、公債費の占める割合)
- 資料3 県内各市町村の経常収支比率の健康診断表
- 資料4 県内市町村の市町村税徴収率の対前年度比較
- 資料5 県内各市町村の市町村税徴収率にかかる現年課税分・  
滞納繰越別徴収率の対前年マトリクス
- 資料6 県内各市町村の市町村税徴収率の健康診断表
- 資料7 各市町村別・性質別経常収支比率の類似団体平均との比較

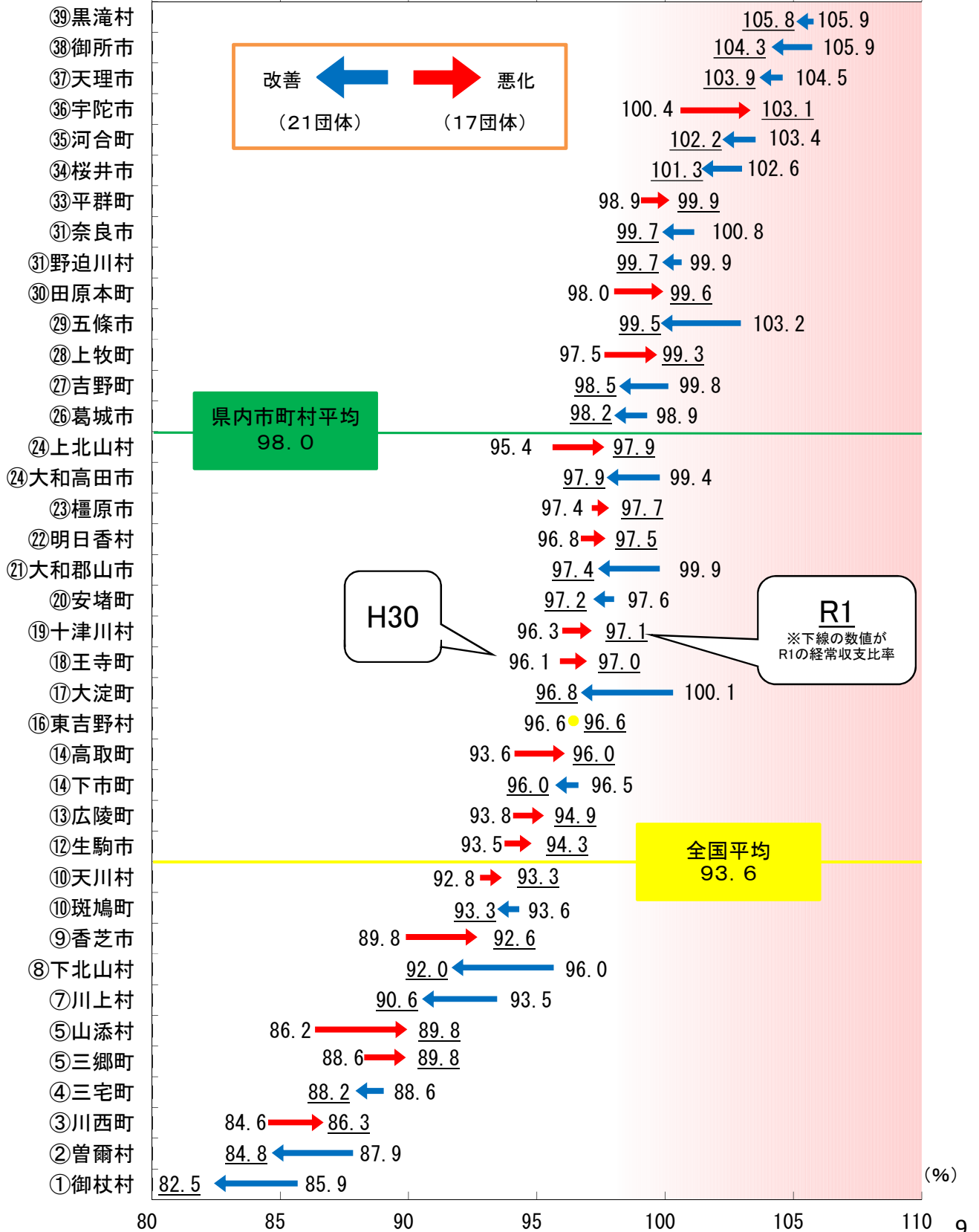
# 県内各市町村の経常収支比率の対前年度比較

資料1

○前年度より改善した団体数は21、悪化した団体数は17、前年度と変動なしが1団体。  
 ○経常収支比率が全国平均より高い団体は28団体(前年度31団体)。



※○内の数字は、県内順位



(%)

## 県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳及び対前年度

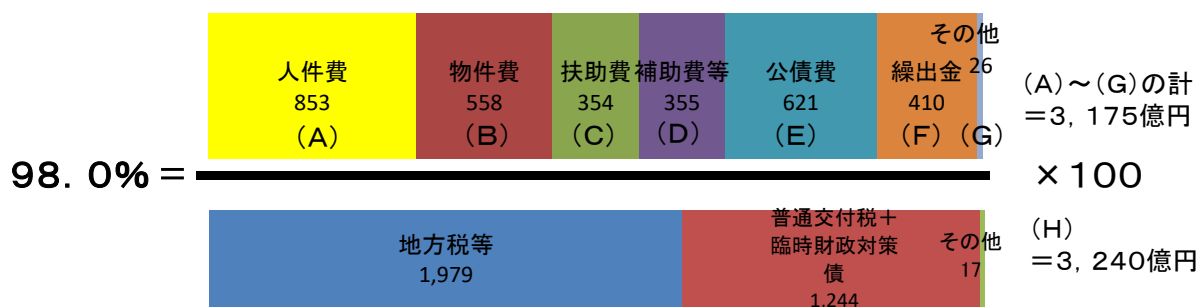
資料2①

経常収支比率とは、地方税、普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される財源のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充当されたものが占める割合のことで、下記により算出。

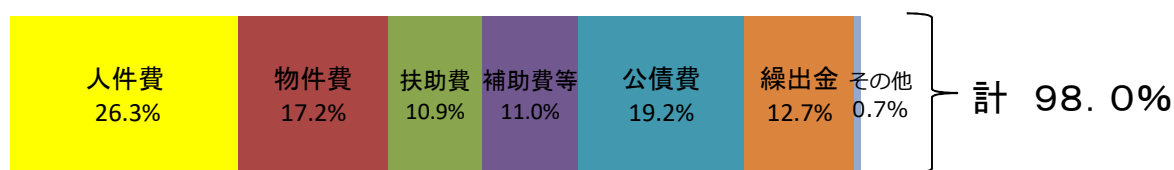
$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{人件費、扶助費、公債費等経常的な支出に充当した一般財源}}{\text{経常一般財源(地方税+普通交付税等)+減税補てん債+臨時財政対策債}} \times 100$$

令和元年度の経常収支比率(県内市町村平均)は以下のとおり算出。

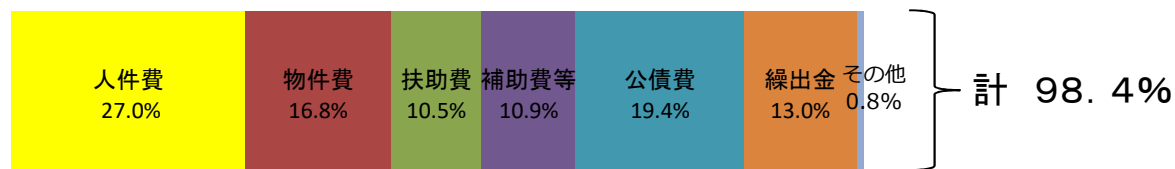
(単位:億円)



令和元年度の経常収支比率(市町村平均)は98.0%で、上記(A)~(G)それぞれを(H)で割ると、それぞれの性質毎の経費にかかる経常収支比率が算出。



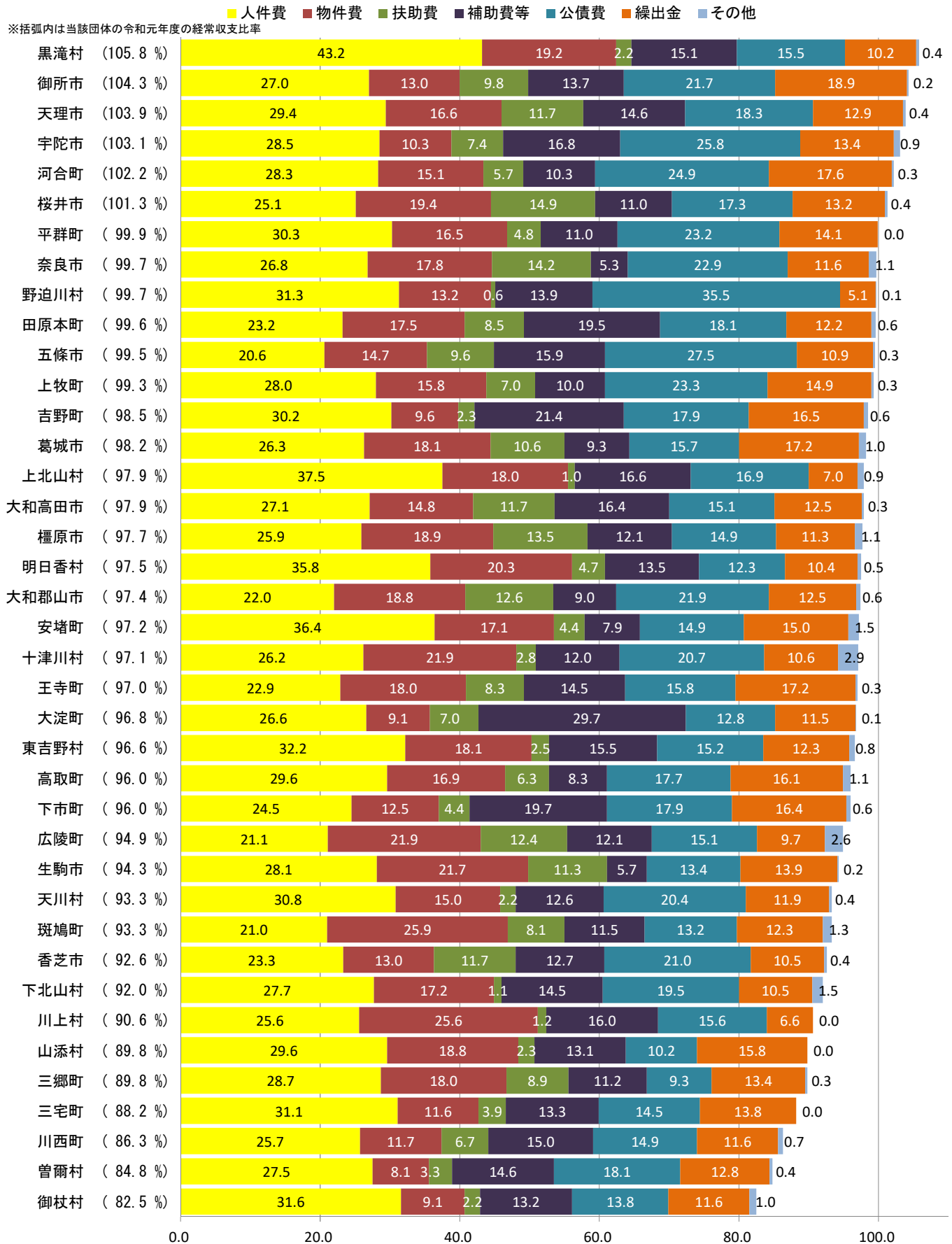
一方、平成30年度決算では、以下のとおり。



県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳は **資料2②** のとおり。

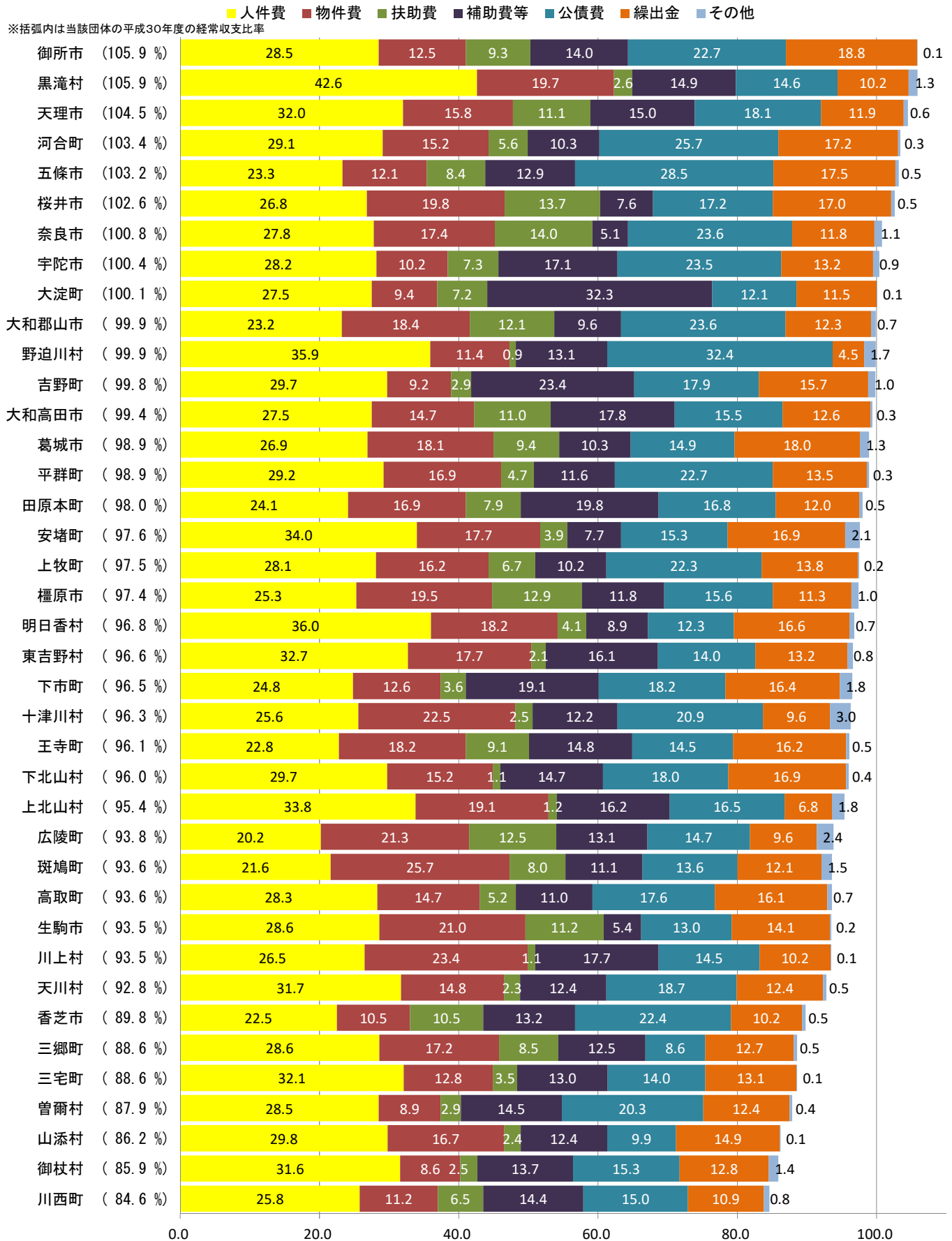
# 県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳

資料2②



# (参考H30) 県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳

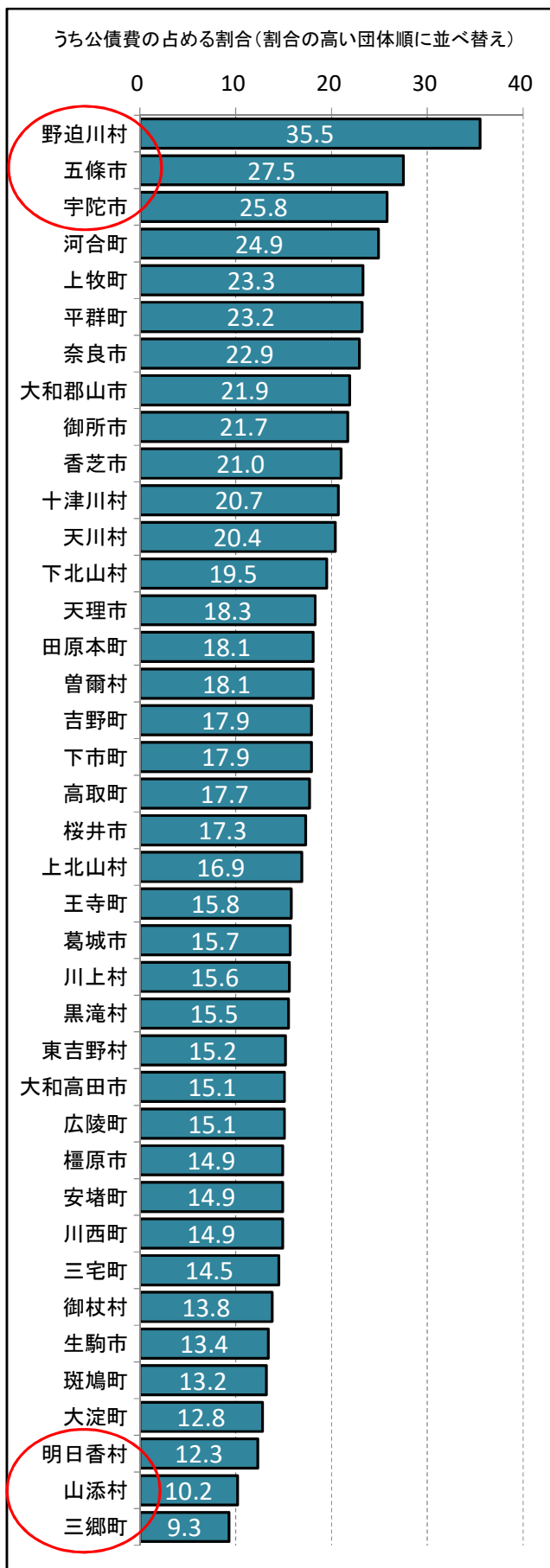
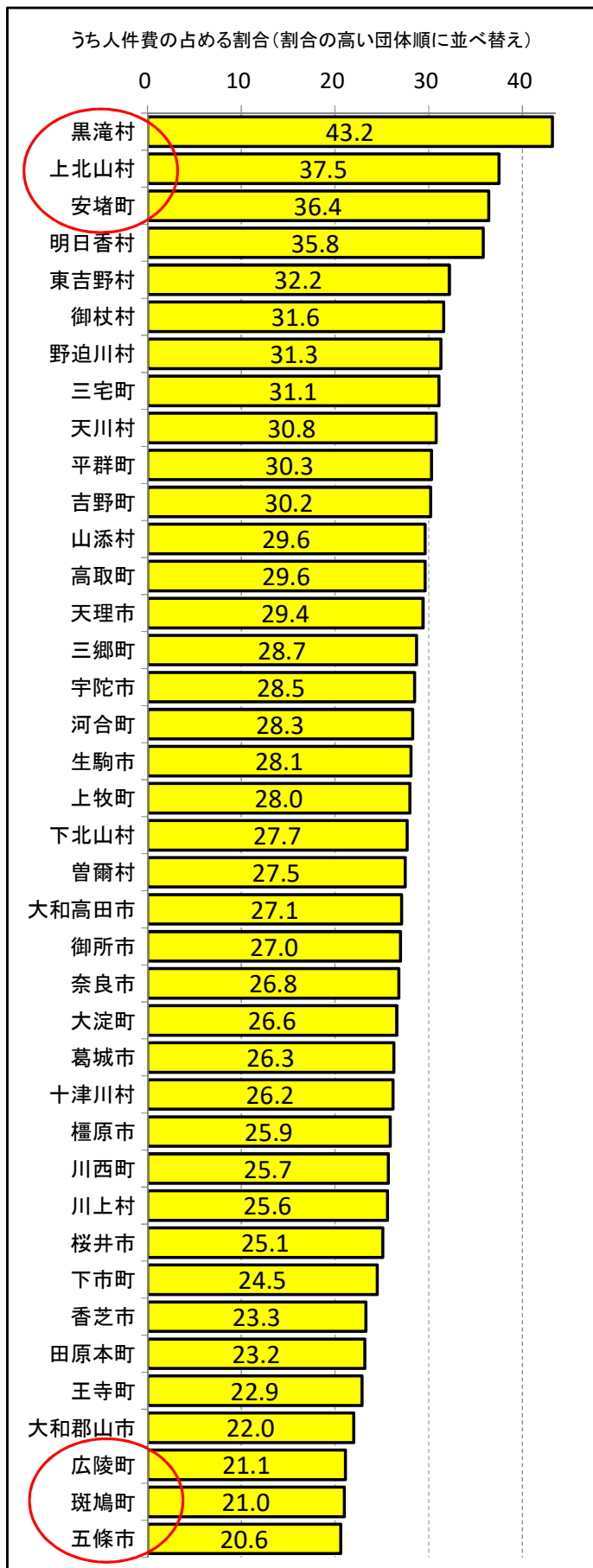
資料2③



県内各市町村の経常収支比率の性質別内訳(うち人件費、公債費の占める割合)

資料2④

○令和元年度の経常収支比率に占める人件費の割合が高い団体は、黒滝村、上北山村、安堵町などで、低い団体は五條市、斑鳩町、広陵町など。  
 ○令和元年度の経常収支比率に占める公債費の割合が高い団体は、野迫川村、五條市、宇陀市などで、低い団体は三郷町、山添村、明日香村など。

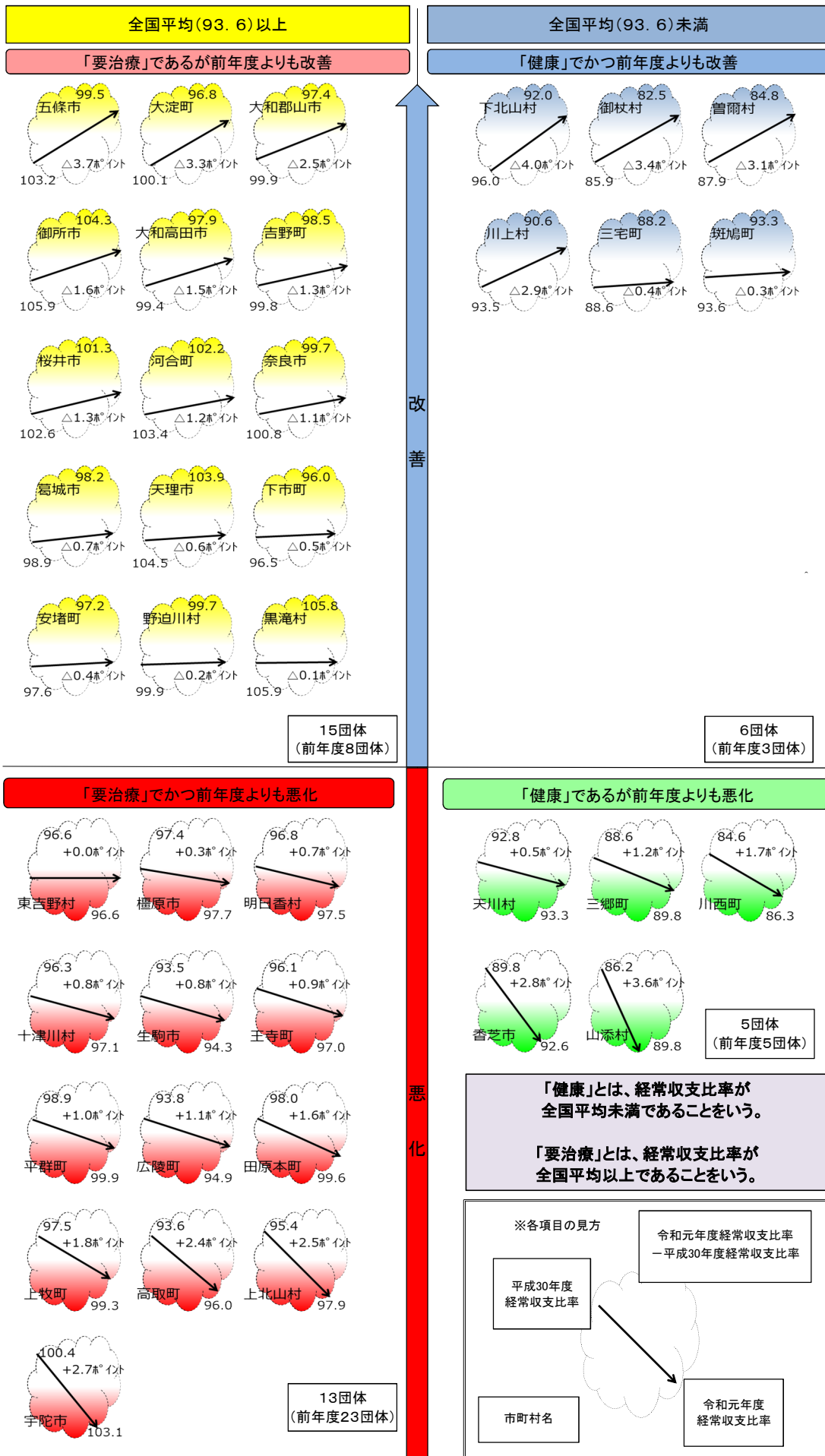




県内各市町村の経常収支比率の健康診断表  
(全国平均を目安に「健康」と「要治療」に区分)

資料3

○県内各市町村の経常収支比率を全国平均を目安に「健康」と「要治療」に区分し整理。  
 ○「要治療」領域に属する28団体のうち、13団体が前年度よりも悪化。  
 ○「健康」領域に属する11団体のうち、斑鳩町、三宅町、曾爾村、御杖村、下北山村、川上村の6団体が前年度より改善。



# 県内各市町村の市町村税徴収率の対前年度比較

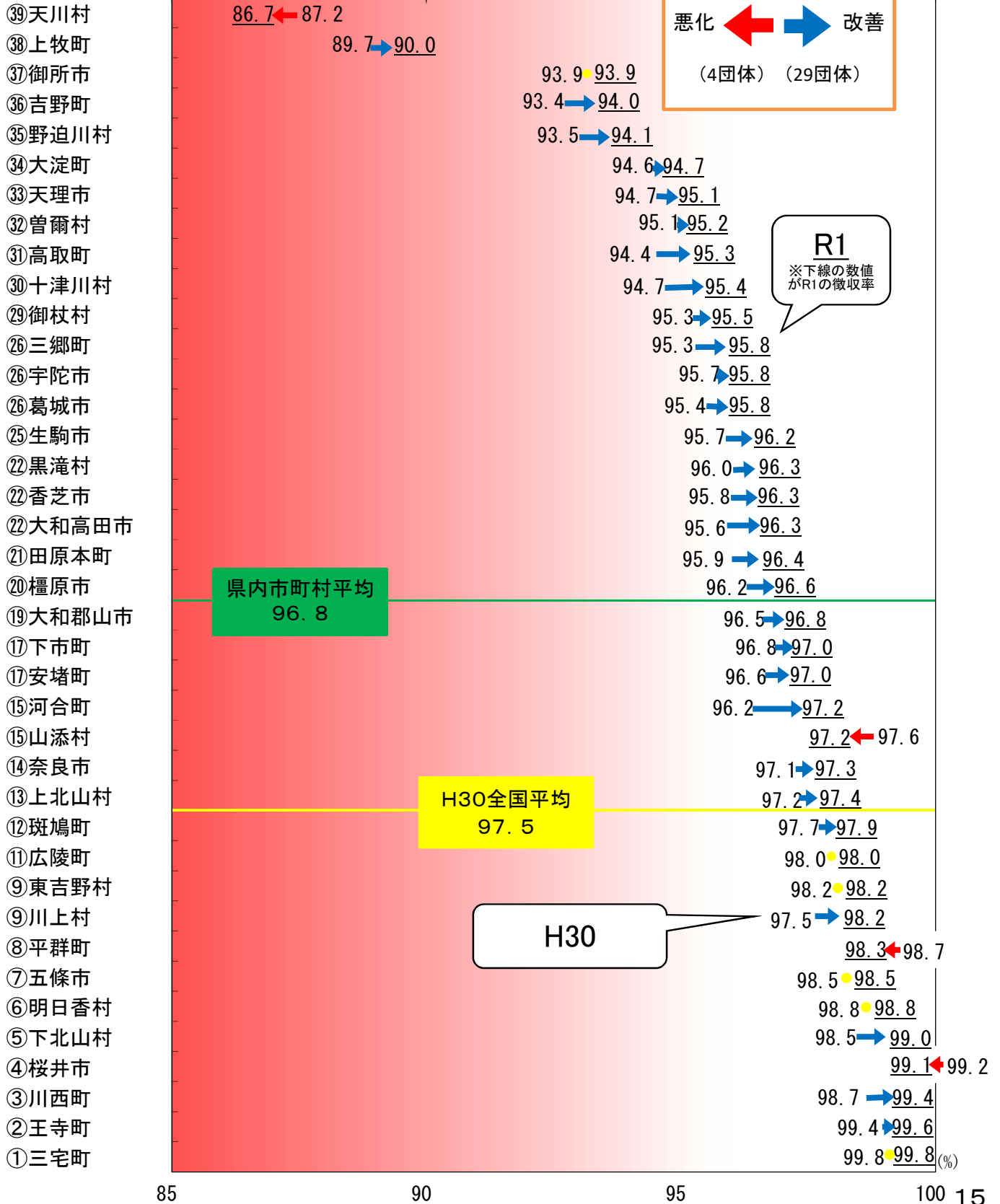
資料4

○ 前年度より改善した団体数は29、悪化した団体数は4、前年度と変動なしが6団体。

○ 河合町が大きく改善。



※○内の数字は、県内順位



85

90

95

100 15

# 県内各市町村の市町村税徴収率にかかる現年課税分・滞納繰越分別徴収率の対前年マトリクス

資料5

○県内各市町村の市町村税徴収率を、現年課税分徴収率と滞納繰越分徴収率の対前年度増減で区分し整理。  
 ○現年課税分徴収率が前年度より改善した団体は25団体で、このうち滞納繰越分徴収率が前年度より改善した団体は大和高田市など18団体、前年度より悪化した団体は大和郡山市など7団体。  
 ○現年課税分徴収率が前年度より悪化した団体は14団体で、このうち滞納繰越分徴収率が前年度より改善した団体は御所市など8団体、前年度より悪化した団体は奈良市など6団体。

## 「現年」改善であるが「滞納」が悪化



## 「現年」改善でかつ「滞納」も改善



7団体  
(前年度13団体)

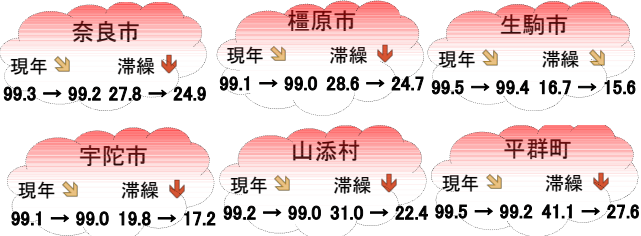
18団体  
(前年度17団体)

上昇	↗
うち+2%超	↗
下降	↘
うち▲2%超	↘
変動なし	↔

悪化

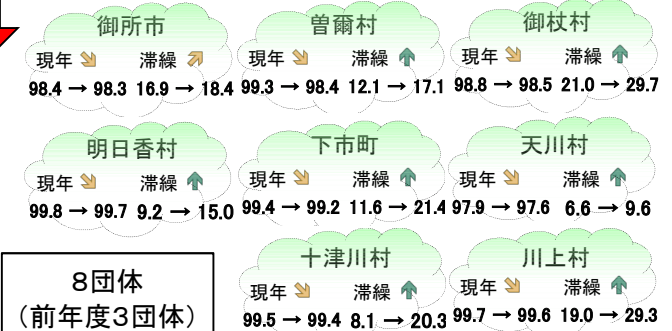
改善

## 「現年」悪化でかつ「滞納」も悪化



6団体  
(前年度6団体)

## 「現年」悪化であるが「滞納」が改善



8団体  
(前年度3団体)

改善

悪化